

## 報道記事から見る岐阜の偉人たち ～新聞記事デジタルデータの利用～

三宅 茜巳 (岐阜女子大学)

### 概要

岐阜新聞記事データベースを利用し、デジタルアーカイブの活用とその課題について実践的に考察した。

### キーワード

デジタルアーカイブ、活用、地方紙、新聞記事、報道、偉人、岐阜

### 1. はじめに

地方紙は地域情報の宝庫である。原紙の劣化が進む中、地域における地方紙の役割の重要性に鑑みて、地方紙のデジタルアーカイブ化は、きわめて重要な課題である。そもそも地方紙における創刊以来の紙面の保存意識は高く、原紙での保存、マイクロフィルムでの保存が行われてきた。しかし、デジタルデータの保存と公開には著作権・肖像権・人権などの課題がある。また、紙面のデジタル化、校閲、メタデータの付与、公開には人手と資金が必要となる。データベースの構築には構築費、メンテナンス費、維持費なども必要である。幸い、岐阜地域の代表的な地方紙である岐阜新聞は記事のデジタル化が進められており、データベースも公開されているため、記事の検索が可能となっている。

一方、新聞記事のデジタル化が進んでも、過去の記事のデジタルデータを誰が、どのように利用するのかは明らかになっていない。地方新聞のデジタルデータの利活用に関しては、我が国ではほとんど研究が進んでいないと言っても過言ではない。

そこで、本研究では郷土紙の岐阜新聞とタイアップし、過去の紙面のデジタルデータの具体的な活用事例を示すこととした。

調査の対象としたのは、岐阜県にゆかりのある偉人たちである。岐阜県ゆかりの偉人といえ、ユダヤ難民にビザを発行して多くの人命を救った杉原千畝、横浜市の財界リーダーとして活躍した原三溪、多治見市出身で人間国宝になった荒川豊蔵、恵那郡岩村出身で女子教育の母といわれる下田歌子、戦国武将では、斎藤道三、明智光秀など、歴史の教科書にも名前を残した県ゆかりの偉人達が数多くいる。こうした偉人達の中から、岐阜県や日本国の経済・文化の向上に寄与した9人を取り上げた。過去の報道記事や写真からこれらの人たちの想いや人となり进行调查し、文献やフィールドワークによって得られた知見を追加して報告書『報道記事から見る岐阜の

偉人たち』にまとめた。

研究の実施にあたり、大学の研究者と企業の関係者が手を携えて共同研究をすることができたのは、有益なことだったと思う。

## 2. 研究目的

デジタルアーカイブの具体的な活用事例を示すとともに、活用における課題を明確にすることを目的とする。

## 3. 研究内容

まず、岐阜新聞記事データベースを用いて、岐阜の偉人たちの記事を調査する。調査結果に基づき、文献調査、フィールドワークを行う。これにより得られた知見をもとに、再度記事データベースを調査する。一連の調査によって得られた情報をもとに記事アーカイブの活用事例を示し、アーカイブ活用における課題を明らかにする。

### 3-1. 調査対象者

斎藤道三、明智光秀、古田織部、下田歌子、名和靖、原三溪、高木貞治、荒川豊蔵、杉原千畝

## 4. まとめと課題

岐阜新聞社には創業以来の新聞記事がアーカイブ化されている。記事データベースも整備されており、記事の検索が可能である。記事のテキスト化は継続中であるため、すべての記事がキーワード検索できるわけではない。すべての記事がテキスト化され詳細検索が可能になることが望まれる。

岐阜新聞社は記事以外に、多様な画像を所蔵しており、今回の研究にこれらの画像を活用することができた。特に筆者が担当した高木貞治に関する画像は、筆者が初めて見る画像が複数所蔵されており、これらの画像を報告書に使うことができたのは幸いであった。高木貞治の資料の多くは本巣市教育委員会が管理しているが、こうした資料も含めてアーカイブ化され、そのアーカイブが永続することが望まれる。

岐阜新聞社所蔵以外の画像については、外部の組織などの協力を得て、収集し報告書に掲載した。協力いただいたのは、本巣市観光協会、常在寺、実践女子大学図書館、等である。すでにパブリックドメインとなっている画像については、これを活用した。一部有償で購入した画像もある。こうした画像については、粗野な画像でも良いのでネット上で検索可能となることが望ましい。所蔵機関、権利を持つ組織や個人が容易に特定できれば、権利処理に時間を取られずに研究を進めることができる。

岐阜女子大学と岐阜新聞社が連携することによって成り立った研究となった。研究を進めるにあたり、両組織にコーディネーターとなる人材が存在することが重要だと感じた。また、組織が違えばルールや文化も違うので、互いの組織のルールや文化を双方が尊重しあうことが肝要である。